

健康や環境 最先端研究

サントリーH D 学研都市に拠点完成

サントリーホールディングス 成し、27日に現地で竣工式があ
 (大阪市)の新研究開発拠点「サ った。社内外の研究者が交流し、
 ントリー ワールド リサーチ 健康や微生物、植物、水、環境
 センター」が京都府精華町精華 の分野で世界最先端の研究に取
 台の関西文化学術研究都市で完 り組む。



研究者が分野を超えて交流できるよう開放的な空間に設計された「サントリー ワールド リサーチセンター」(27日午前11時10分、京都府精華町)―撮影・船越正宏

新拠点は、敷地面積約4万9千平方メートルで、建物は4階建て延べ約2万3千平方メートル。学研都市の民間研究施設としては最大級で、学研都市の機能強化や地域の活性化が期待される。

国内外で競争が激しさを増す中、研究開発体制を強化するため約100億円を投じて大阪府島本町の3カ所の研究拠点を集約した。約400人が勤務する。

新拠点の室内は、異なる分野の研究者の議論を促進するため、固定席ではなく、共用の机や実験室を設けた。学研都市に集積する企業や研究機関、大学との交流も進める。

サントリーグループは、ゴマのサプリメントや青いバラ、壁面緑化用素材など幅広い分野で新技術を生み出している。新拠点でも世界に通用する製品の開発を目指す。

記者会見した新浪剛史社長は「新しい価値を社内外の人と一緒に作り、世界に広げたい」と述べた。
 (三村智哉)

健康・長寿 学研から世界へ

サントリー新研究拠点社長が会見

京都府精華町の関西文化学術研究都市で27日に竣工式が行われたサントリーホールディングスの新研究開発拠点「サントリーワールドリサーチセンター」は、健康・長寿分野を中心に国内外の研究者が交流する場となる。今後、高齢化が急速に進行する日本経済の中長期的な成長をはじめ、学研都市全体の活性化をけん引する役割も担う見通しで、誘致した京都府などは期待を高めている。

「健康・長寿の需要は 上高を現在の1・6倍とどの国にもある。まず日本 なる4兆円まで伸ばす目標を取り組んでから海外 標を掲げている。昨年5月に見据え、世界一を目指す。現地で記者会見した新浪剛史社長はこう強調した。同社は2020年の売上を強化しているところだが、グローバル競争は激しく「将来の価値を生み出すシース(技術の種類)を今のうちに作らないと10年先、20年先はない」(辻村英雄専務)と危機感を抱く。

中長期的な成長に向けて首脳陣が決断したが、研究開発体制の拡充だった。大阪府島本町内に分散していた研究所を移転、集約させた新拠点はその中核となる。ゴマ



研究開発を強化し、健康・長寿関連の新製品創出に力を入れる方針を示すサントリーホールディングスの新浪剛史社長(京都府精華町)＝撮影・船越正宏



社内外の研究者の交流が促進するよう設計された「サントリーワールドリサーチセンター」(京都府精華町)

府 産学連携 けん引期待

のサプリメントや特定保健用食品の茶など実績がある健康・長寿分野での新製品創出に特に力を入れ、アジアや欧米に展開する戦略を描く。

研究活動では、企業や大学とも積極的に連携を図る方針。近くの「けいはんなオーブンイノベーションセンター」(旧私利のしごと館)をはじめ、学研都市には多くの企業や大学、研究機関が集積しているため、山田啓二府知事は「学研が日本のイノベーション(技術革新)をけん引する中心になる」と期待する。

府が研究開発施設などの誘致を進めている精華・西木津地区では、三菱東京UFJ銀行が大規模事務センターの建設が決まるなどすでに用地の9割超が埋まり、残り区画でも交渉が進んでいる。

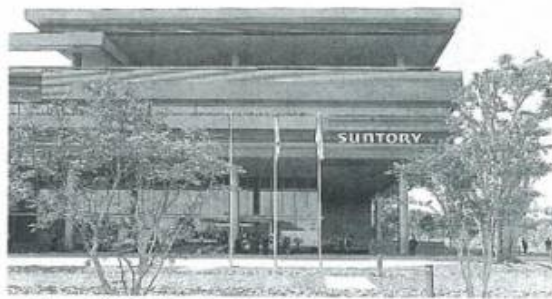
府文化学術研究都市推進課は「厳しい時期もあったが、進出を計画する企業のニーズを踏まえて、学研都市の魅力を訴え続けてきた成果が出てきた」としている。

(三村智哉、堀内陽平)

けいはんな 生み出す最先端

1面から続く

京都府精華町にできた研究施設「サントリー ワールド リサーチセンター」で記念式典が27日開かれ、約1500人が参加した。4階建ての研究所は約4万9千平方メートルの敷地に立つ。敷地内に壁や柵を設けず、建物内は吹き抜けを生かした開放感ある空間にした。従業員の決まった自席



オープンした「サントリー ワールド リサーチセンター」=27日午前、京都府精華町、筋野健太撮影



けいはんな学研都市

京都府、大阪府、奈良県の計8市町にまたがる文化・学術研究の拠点。建設を進める法律が1987年に施行され、国家プロジェクトとして地域づくりが進められてきた。総面積は1万5千坪で、エリア全体の人口は約24万7千人。



がない「フリーアドレス」方式を採用。施設内はセキユリティーの基準を複数設け、近くの大学や企業の研究者らも入館して交流しやすい「コラボスペース」を設けた。

企業・大学など次々

サントリーの研究所を含め、学研都市には127の企業、大学、研究機関の施設が並ぶ。京セラ、オムロン、鳥津製作所なども研究拠点を構える。技術や研究の

成果を産業にどう結びつけ、街のにぎわいを高めるか。学研都市が向き合う課題だ。新たな産業を育むために期待されている施設の一つが、国の職業体験施設だった旧「私のしごと館」だ。

2010年に閉館して「空き家」状態だったが、京都府が昨年4月に施設を譲り受けた。研究施設「けいはんなオープンイノベーションセンター」としてよみがえらせ、様々な企業や団体が集う場をめざす。京都国立博物館が文化財保存の研究拠点として入居を決め、今年4月22日には、イスラエルのテクニオン・イスラ



街の活性化に期待

学研都市は00年代の規制緩和で、研究施設と一体の工場を建てられるようになり、中堅企業の進出が増えた。企業立地を進めるとともに、大型の宅地開発も一体で進められてきた。

サントリーの研究所などがある「精華・西木津地区」(京都府木津川市・精華町)を中心に、人口は今も増える。木津川市は10年4月末に約7万人だったが、今年4月末には約7・3万人になった。

■けいはんな学研都市のあゆみ

1978年	「関西学術研究都市調査懇談会」発足
1987年	関西文化学術研究都市建設促進法が施行
1994年	けいはんな学研都市の都市開き
2000年	アクセス道の京奈和自動車道が京都府内で全通
2002年	国立国会図書館関西館がオープン
2006年	近鉄けいはんな線が開業
2011年	「関西イノベーション国際戦略総合特区」に指定



学研都市 集う頭脳

先端研究と日常生活の現場がともにある利点を生かし、新たな都市の姿を探る動きも進む。京都府は学研都市で、最新技術を生かしてエネルギーを効率的に使う「スマートシティ」の実現をめざしている。

公益財団法人・関西文化学術研究都市推進機構の三宅正之参与は「世の中の流れを踏まえながら、学研都市のあるべき姿を追って」と話す。

(伊藤誠、西村宏治、瀧呂木佐季)

サントリーが新施設

けいはんな学研都市の京都府精華町に、サントリーホールディングスが27日、新たな研究所を開いた。約400人が働き、健康科学や環境緑化などの分野で世界最先端の研究をめざす。

「サントリー ワールド リサーチセンター」は4階建てで、これまで大阪府島本町の3カ所に分かれていた研究拠点を集めた。投資額は約100億円。サントリーが強みを持つ水、食品、植物、微生物などの分野を研究する。館内には共用の実験室や議論のスペースを設けるなど、分野の異なる研究者も対話しやすい設計にした。

研究所ができた地区は、国立国会図書館関西館や大手企業の研究所が立ち並ぶ。構想から40年近くなる学研都市は施設の立地が進まずに苦しい時期もあった。規制緩和や自治体の支援などもあり、最近では新施設がじわりと増えてきた。

8面に続く

第17回総会（2014年10月10日）当日、建築中のサントリーワールドドリスーチセンター

